

私達の会は来年三月で三才になります。この間、会そのものは育ちませんでした、発起人自身が育った時期だったように思います。会の基礎固めには、活動の資金源となる基金準備や協力者が必要ですが、それ以前に会の「コンセンサス」を樹立する過程が非常に大事だと思います。それには核となる人間が知識や経験の検証を重ね、社会の中で立場や意見の異なる人々と検討協議し、自分自身の小さな経験を考え抜く作業を繰り返し、周囲に伝えていく事が必要です。

動物関係の市民グループは、野良猫の不妊や治療をしたり、拾った猫の貰い手を探し、捌け損ねた猫を終生飼養する人達が立上げる事が多いのですが、私達の会も御多分に漏れません。国内どこでも、遺棄動物を気にかける人達は少なくないのですが、現況下では全体状況を変える力がありません。最初は楽しい趣味です。社会を視座に入れず、個人的な動物愛護の視点しかもっていません。

ある程度経験を積むと、遺棄動物が生まれる社会的背景、遺棄動物が置かれている状況、自称動物好きの言葉と現実のギャップ、私達自身を含め遺棄動物をケアする人達が起こすトラブル、「保護活動」を標榜する人達の嘘や無知、社会性の欠如や未熟さが認識されてきます。又、個人飼主の飼育実態や動物病院の実態、獣医さんの意識レベル等、身近な所で「人と動物の関係」「動物達をとりまく現状」が少しずつ見えてきます。野良猫が気にかかる、捨てられた仔猫が可哀想だけでは片付かない問題が横たわっています。

漠然と「社会的な取組みが必要だ。」と強く感じていたものの、何をどう考えたらよいのか、私達には最初よく分かりませんでした。丁度、動物愛護法の改正に伴い県条例が検討されていた時期で、法整備、これだ！と思い、取り敢えず県条例作成に県民として提言を寄せる事から始めました。

私達はそれまで動物に関する法律に目を通した事もなく、国内外の動物に関わる運動についても無関心でした。身近な捨て猫を気にかけてきた「猫おばさん」としての経験の蓄積から法律を読むと、条文から現場の様々な問題が見えてくるので、法律も面白いものですが、経験という程の経験のない人が、法令集をから入ろうとしてもとっつきにくく感じるのが普通だと思います。しかし、法律の素人でも身近な動物問題に取り組んで、自分の経験に正直に考えていくと法整備が如何に重要課題であるか実感されてきます。

何の準備もなく駆け出した時、私達の周りにいる人達は私達同様に無知でしたし、個人的な動物愛護の世界に執着している段階の人が多く、相談相手が見当たりません。インターネットで県外の動物関連の団体の情報を検索するだけでなく、私達は直接電話でお話を伺う事で人の輪の中に入っていました。これにはお金がかかりますが必要な事です。直の会話は相手のある事ですから、文章と違い一方的には運びません。会話のやりとりでは、ホームページや会報では得られない肝心な情報が得られます。都合の悪い事には触れないですまそうとする相手かどうか、看板と実態が相違しないかどうか、こちらの質問に率直に答えているか、綺麗事で誤魔化そうとしていないか。私達には保護活動の経験があり、情報の真贋のふるい分けにこれが大変役立ちました。

現在、私達の会は、山口先生の所属する「弍日本動物福祉協会」にしばしば相談し、助言や情報を得ています。他にも「動物との共生を考える連絡会」の署名活動に協力し、「ペット法学会」「人と動物の関係学会」に関心を寄せています。私達に糧となったものを、地元鳥取に伝えていくにはどうしたらいいだろう？県外では講演会やシンポジウムが盛んですが、出掛けていくのは容易ではありません。良質の講師を鳥取にお招き出来ればという私達の願いに、山崎恵子氏に引続き山口先生が応えて下さいました。快く引き受けて下さった超多忙のお二人に、ここに謹んで感謝したいと思います。

会の講演会事業は私達のアニマル・アドボケートであり、又、今日、講演会にお集まり戴いた皆様と共に、私達の一人一人が「アドボケートたらん」とする推進力に育ち、鳥取の人と動物の関係がよりよい方向に改善されていく事を願って行なっています。身近な問題、日頃の疑問をどう活かしていけばいいのか、大きな負担を背負い込むのではなく、誰もが出来るちょっとした事、それを一緒に考えていきたいと思っています。